教科	農業	科目	生物活用	単位数	2 単位	学年	3 年	コース	E 選択
使用教科書	生物活用　実教出版			使用副教材等					

目標	(1)生物活用について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)生物活用に関する課題を発見し、産業教育に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)生物活用について、生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	園芸や社会動物が人の健康にもたらす効用の体験や生物を活用した交流活動などのプロジェクト学習を通して、園芸・社会動物の健康効果と交流対象となる人の発達段階や健康についての基礎的な知識と技術を体系的・系統的に理解している。	人々の健康に関する課題を発見し、園芸や社会動物とのふれあいや飼育が健康増進につながるよう科学的な根拠に基づいて交流活動を計画し、生物活用に関する課題について創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	園芸や社会動物を活用する学習を通して、地域の人々の生活の質の向上を目指し、健康増進を付加した農業の振興や社会貢献に、自ら課題解決に向けた意識をもって主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト ・実習における各種技能習得	・定期考査 ・小テスト	・授業態度 ・実習態度 ・実習記録簿や各種提出書類

担当者からのメッセージ	・刃物等の道具を扱うため安全に配慮した実習態度を心掛けること ・定期考査の実施あり ・実習費を徴収する場合がある

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準
1	4 ｜ 7	第1章　生物活用の意義と役割 1　生物活用の意義と役割 2　生物活用とプロジェクト学習 ○生物を活用することにより、人間の生活の質を向上させることができることを理解させる。 ○人間社会における園芸作物や社会動物の活用方法について主体的に理解させる。	■園芸作物や社会動物の活用の重要性や、活用がもたらす人間への効用について興味・関心をもち、基礎的な知識を身に付け、人間と生物との関係性について探求しようとしている。[知・態] ■園芸作物や社会動物の活用の重要性と、生物の活用がもたらす人間への効用について思考を深める。[思]
2	9 ｜ 12	第2章　園芸作物の栽培と活用 1　植物・園芸と人間生活 ○植物や園芸がもつさまざまな効用について理解させる。 2　草花の栽培と活用 ○草花の色や形態など、園芸デザインの基本について理解させる。 ○花壇に適した草花や花壇の種類などについての知識を生かし、その場に応じた花壇を作成できるようにさせる ○ユニバーサルデザインや西洋・日本のデザインを理解させる ○フラワーデザインの歴史や活用方法などについて理解させる。 ○フラワーデザインやこれらに適した草花に関する知識を生かし、コサージュやブーケなどを作成できるようにさせる。	■植物や園芸作物の活用の特徴、およびこれらの活用に関する具体的な場面について理解し、これらに関する資料や情報などを収集し、適切に選択して活用している。[知・思] ■草花の色や形態などの園芸デザインの基本について興味・関心をもち、これらの活用方法についての知識を身に付けている。[知・思・態] ■花壇に適した草花や花壇の種類などについて興味・関心をもち、これらについての基礎的な知識を身に付けている。[知・態] ■バリアフリーとユニバーサルデザインの特徴やこれらの違いについて理解し、これらに関する資料や情報などを収集し、適切に選択して活用している。[知・思] ■フラワーデザインの歴史や活用方法などについて興味・関心をもち、これらについての基礎的な知識を身に付けている。[知・態] ■フラワーデザインに関する基礎的な技術を身に付けるとともに、フラワーデザインに適した草花を選択し、作成することができる。[知・思]
3	1 ｜ 2	第5章　生物活用の実践 1　交流活動の心がまえ ○動物や植物を活用した交流活動の流れについて理解させる。 ○交流活動の資源や対象者の特徴をふまえた、交流活動の計画の立案や実施について理解させる。 2　交流活動の実際 ○これまでの学習を生かして、交流活動を計画できるようにさせる。 ○交流活動のまとめを実施し、次回の実施に向けて思考を深められるようにさせる。	■生物を活用した交流活動について興味・関心をもち、基礎的な知識を身に付けている。[知・態] ■交流活動の計画の立案や実施についての基本的な知識を身に付けるとともに、交流活動の資源や対象者の特徴をふまえた交流活動の実施方法について思考を深めることができる。[知・思] ■実際に行われている植物を用いた交流活動について興味・関心をもち、みずからが実施する交流活動に適しているかについて判断できる。[思・態] ■交流活動に関する基礎的な知識や技術を生かし、実施する交流活動の計画の立案や、生物の選定などを合理的に判断できる。[知・思] ■実施した交流活動における反省点や改善点に気づき、次回の実施において改善すべき点についての思考を深め、その過程を表現することができる。[知・思]